

『撰時抄』に、

「日蓮は日本第一の法華經の行者なる事あえて疑ひなし、これをもつてすいせよ漢土月支にも一閻浮提の内にも肩をならぶる者は有るべからず」(全二八四)と仰せになつておられます。

それは『佐渡御書』にお示しの如く、「御身は凡夫、御身は人身似て畜身」なりとも、その心、「御内証の尊貴」「御内証の尊極」に依るのであります。

日寛上人はこの大聖人の「御内証の尊貴」について、『開目抄愚記』に、

一、未萌を知り、三世の流転を知見遊ばす智慧の尊貴。

二、「日蓮が慈悲曠大ならば南無妙法蓮華經は万年の外・未来までもながるべし」との慈悲の尊貴。(報恩抄 全三二九)

三、一心欲見仏不自惜身命の誓願、「我日本の柱とならむ我日本の眼目とならむ我日本の大船とならむ」との三大誓願、そしてまた一天広布の大誓願等々の誓願の尊貴。(開目抄 全二二二)

四、俗衆増上慢、道門増上慢、僭聖増上慢等の三類の強敵をことごとく道破し、しのがれた修行の尊貴、行者の尊極。

五、「至理は名無し聖人理を觀じて万物に名を付くる時、因果俱時不思議の法之れ有り、之を名けて妙法蓮華と為す」と、未だかつて如何なる仏も、如何なる人師も開顯し得なかつた久遠元初の開顯、つまり本地の尊貴。(当体義抄 全五一三)

六、「日蓮は天上天下の一切衆生の主君なり父母なり師匠なり」と明言され、た主師親三徳の尊貴。(産湯相承全八七九)

この六つの御内証の尊貴、尊極の故に、大聖人は御自ら「一閻浮提第一の聖人」、「大聖人」と仰せられ、「末法の御本仏」として、私達はまたその通りに拝承申し上げるのであります。

大聖人の。「一閻浮提第一」の正法を信受し、行ずる者には行ずる者の値打と
福德が自ら備わつて来るのです。

大聖人は『持妙法華問答抄』に

「されば持たる法だに第一ならば持つ人随つて第一なるべし」(全四六六)

と、私達をも称賛下さつております。

逆説的に申し上げますなら、『御義口伝』に。

「十界の心性は所持の法なり」(全七九六)

と、十界の衆生の心性は所持の經の体なり」(全七九八)

は、その地位や財産や年令、肩書を抜きにして、人間の最終的なその生命の価値

如何なる法を修し、如何に生きたかと言う事によつて決まるのであります。

「法妙なるが故に人貴し、人貴きが故に所尊し」(南条殿御返事全一五七八)

との御文を心に抱いて、どうか本日此処に御参集の皆様は「一閻浮提第一」の法

を行ずる者こそ第一の人なり」との確信を持って、大聖人の弟子らしく、信徒

らしく師子王の氣概のもとに、悔いなき時を生きて頂きたいのであります。

どんな人の命にも過去と現在と未来という三世の時というものがあります。

私達は過去をどうすることも出来ません。遠き未来はまた予測する事は出来

ませんし、手が届きません。此の三世の中で、自らの信心によつて、自らの存

念で改革出来るのは、まさに現在だけであり、今しかないのです。

「わざわひも転じて幸ひとなるべし。あひかまへて御信心を出だし、此の御

本尊に祈念せしめ給へ。何事か成就せざるべき。「充滿其願 如清涼池」、

「現世安穩 後生善処」疑ひなからん」

経王殿御返事

どのようないきなきさい。何事も成就しないわけがない、必ず叶うのである

初心の信心をたもち、益々のご精進をご祈念申し上げます。